

平成30年司法試験 合格体験記

平成29年度修了（既修コース）平塚 絢那

1 自己紹介

13期既修の平塚絢那です。私は、島根県の松江市出身で、岡山大学の法学部に進学し、岡山大学法科大学院に進学いたしました。約7年間の間、岡山大で過ごさせていただきました。そして、平成30年度の司法試験でなんとか合格することができました。

2 受験生の皆様に伝えたいこと

ここでは、答案を書くにあたって私が意識したことのひとつをお伝えしようと思います。なお、以下のことは、私なりの勉強法ですので、合格するための一つの考え方、といった軽い感じに捉えてもらえればと思います。

私が答案を書く中で一番に意識したことは、問いにこたえる、ということです。

私は、司法試験の過去の問題、採点実感、合格答案を検討していく中で、司法試験の合格ラインは、自分の中で設定していたものよりもそれなりに低いということに気付きました。その一方で、合格答案で共通していたことは、問いに答えるという姿勢が強いということです。これは、解答者が問題文全体ではなく、問いを書かれている部分に注目して、問われ方にあった答え方をしているということです。これを守ってさえいれば、書かれている内容が違ったり、足りなかったりしていても点数が取れているのだと、合格答案をみて感じました。

まとめますと、司法試験は、知識の量・正確さを問う試験ではなく、問われたことに答えるというコミュニケーション能力の有無を問う試験だということです。そのため、受験生の皆さんには、問われ方を理解するために、過去問を後回しにせず、早めに取り組んでほしいと思います。

3 振り返って思うこと

受験勉強中、特に直前期の私は、自分のために司法試験を受け、一人で頑張っているつもりでした。しかし、合格して初めて、自分をたくさんの方が心配し、合格できるよう応援してくれていたのだとわかりました。受験勉強は、長くて、つらく苦しいものでした。しかし、耐えられなくなったとき、助けてくださる方々がいる環境だからこそ、最後までがんばることができました。

これからは、受けたご恩を返していけるよう、日々精進していこうと思います。岡山大学法科大学院の同期、先生、先輩、後輩および関係者の皆様、本当にありがとうございました。